



事業名

健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現～高齢者が自然とデジタルを活用できる環境の構築～

事業概要

①移動手段の高度化【AI】

- AIオンデマンドタクシーや乗り合い送迎による移動手段の効率化
- ユニバーサルMaaSの構築により、高齢者が気軽に利用できる交通手段の確保

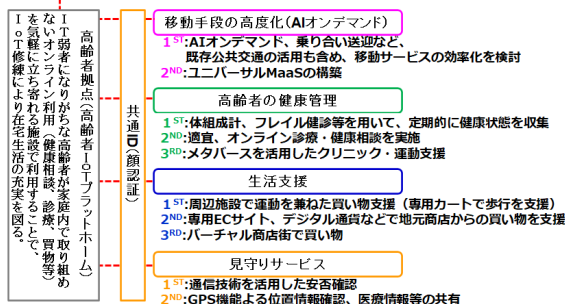
②高齢者の健康管理【IoT、ビックデータ等】

- 体組成計を活用したPHRの推進、オンライン診療
- メタバースを活用したクリニック・運動支援
＜見守りサービス＞
- 通信技術を活用した安否確認、GPS機能による位置情報確認、医療情報等の共有

③高齢者の生活支援【IoT】

- 運動兼買い物、ECサイト、デジタル通貨
- メタバースを活用したバーチャル商店街で買い物
＜高齢者IoTプラットフォーム＞
- デジタル活用講座の実施
- 顔認証を活用した共通IDシステムの構築

<コンセプト>

健康で元気な高齢者！！誰一人取り残されないデジタル社会の実現
～高齢者が自然とデジタルを活用できる環境の構築～

地域課題・目指す将来像

解決すべき
地域課題

- いなべ市では、令和2年度に3人で1人の高齢者を支えている状態だったが、令和12年度には1.8人で1人の高齢者を支えなければならない時代が来ると予想される。
- 現状では、高齢者の一人暮らし世帯も多く、デジタルを活用できる環境がないことも多い。高齢者を支える人員が確保できている今、デジタルを活用した高齢者の健康づくりや見守りを推進する必要がある。
- 広い市域に集落が点在しており、高齢者の健康や生活を支える移動手段の確保も課題。

目指すべき
将来像

- 「通いの場」をキーステーションにIT、IoTを通じた健康づくり、買い物、生きがいがづくりなど、高齢者デジタルライフを創造

事業の体制（名称：いなべ市未来技術地域実装協議会）

地方公共団体	いなべ市、地域活性化起業人
国（★は現地支援責任者）	★厚生労働省（東海北陸厚生局）、デジタル庁（国民向けサービスグループ）、経済産業省（中部経済産業局）、国土交通省（中部運輸局）
医療機関、研究機関	いなべ総合病院、日下病院、国立長寿医療研究センター
民間事業者	いなべ市社会福祉協議会、ショッピングリハビリカンパニー(株)、岐阜ダイハツ販売(株)、ひかり&ホープ(株)、(株)ダイハツ三重、大日本印刷(株)、MRT(株)、(株)オリエンタルコンサルタンツ、(株)アインファーマシーズ、ADWホールディングス(株)

KPI

主なKPI・関連指標	実績値[目標値]	指標設定・目標値設定のポイント（工夫・示唆等）
オンデマンド交通により減少する移動支援数	-（2024年） [450件（2024年）]	比較検証できるよう実績値（目標値）を「有償ボランティア活動業務報告書にある活動実績及び提供内容中「買い物」と「薬取り」の合計数」とした。
高齢者健診受診率	-（2024年） [60%（2024年）]	比較検証できるよう実績値（目標値）を「KDBデータにある後期高齢者医療健診受診率」とした。
要介護認定者数	-（2024年） [2,000人（2024年）]	比較検証できるよう実績値（目標値）を「介護保険事業状況報告にある要介護（要支援）認定者数」とした。
デジタル安否確認により減少する安否確認高齢者数	-（2024年） [100件（2024年）]	比較検証できるよう実績値（目標値）を「地域包括支援センター事業報告書にある総合相談のうち「その他」（民生委員、他機関メール）の件数」とした。

① 移動手段の高度化【AI】

取組の詳細

【地域課題・将来像】

■ 地域課題

- ・高齢者の免許返納者等交通弱者の増加と移動制約に伴う身体機能低下

■ 将来像

- ・送迎付きで利用できる“通いの場”（ふじわらデイサービスセンター）で、高齢者の移動を含め様々な支援を実施。免許返納後も質を落とさず自立した生活を維持できる地域を創出

【技術的な特徴】

- ・AI共同システムゴイッショ
- ・AIチャットボットによる顔認証、受付など

【推進体制】

- いなべ市、いなべ市社会福祉協議会、日下病院、（株）オリエンタルコンサルタンツ、ダイハツ工業（株）

【資金調達方法】

<実装前（計画・実証段階）>

単費負担（令和3年度）

<実装後>

単費負担



成果・今後の予定

3か年で得られた成果

- ・介護保険の通所施設であった「ふじわらデイサービスセンター」に介護予防事業を取り入れたことで、元気高齢者が集う場を創出できた。
- ・事業を実施していく過程で、送迎ボランティア団体「あじさいまごころ隊」と関わることができ、同団体活動にダイハツ三重の協力により、ボランティア送迎にシェアカーを活用できるようになった。ボランティア送迎の課題である「自家用車の使用」を克服できたことで、活動の幅が広がった。

次年度以降の取組（予定）

ボランティア送迎×地域公共交通活用プロジェクト

- ・送迎ボランティア団体「あじさいまごころ隊」と連携し、イオン大安店までの移動支援を実施。
- ・自宅～イオン大安の送迎ではなく、自宅～駅、バス停までの送迎支援とし、駅、バス停～イオン大安店までは公共交通を利用することで、ボランティアへの負荷低減と公共交通の利用促進をめざす。

各年度の取組実績とフェーズ（検討課題）

	分類	2022年度	2023年度	2024年度
取組実績	-	- 各分野の最新技術動向、現状を把握したうえで、IT、IoTを活用したサービスの検討 - 課題整理と個別新サービス実証計画を策定	- 高齢者デジタルライフ AI共同送迎事業 - 各種サービスを順次導入し、運用テストの後、実装を開始	- 新サービスの事業評価・改善を検討。（第三四半期まで） - 実装サービスの継続実施
（検討課題）フェーズ	地域	ニーズの明確化	認知度・社会受容性の向上	地域住民と担い手として連携
	技術	事業手法の検討	技術の導入・検証	
	体制	推進体制の構築	運営体制の構築	運営体制の構築（体制拡充）
	資金		計画・実証の資金調達	持続可能なビジネスモデルの検討

① 移動手段の高度化【AI】

各フェーズ（検討課題）において工夫したこと、気をつけたこと

認知度・社会受容性の向上

● 利用促進に向けて丁寧な説明を実施

・スマホや顔認証など、高齢者が苦手とするデジタル機器の使用について、安心安全であることを乗車時などに対面で丁寧に説明した。



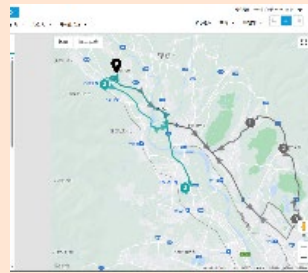
AIチャットボットによる
顔認証受付の様子



AI共同送迎
ルート確認の様子



AI共同送迎 お迎えの様子



AI共同送迎ルートマップ

地域住民と担い手として連携/運営体制の構築（体制拡充）

● 移動をテーマに民間企業や住民ボランティアと連携し、地域ニーズに即したサービスに拡充

- ・当時、送迎ボランティアさんも移動支援が最もニーズの高い地域課題であることを認識していたものの、自家用車使用による移動支援には、交通事故発生時の自動車保険や同乗者への補償などを個人が負うことに対し賛否があった。
- ・自治体の構想と送迎ボランティアの課題が共有でき、自動車販売店の協力を得たことで「ヒト」、「モノ」がつながり、安価な「カネ」で新たな移動手段の確保につながった。



シェアカー出発式の様子



ボランティア送迎の様子

出典：いなべ市広報誌Link

担当者の声



いなべ市
都市整備部
新産業創造課

- ふじわらデイサービスセンターへの送迎の効率化は、デイサービスを運営するいなべ市社会福祉協議会と調整することで、サービス構築することができた。
- 他方、利用者などからは、デイサービス以外への送迎の要望も出ていたが、ドライバー不足によりサービスの拡張が難しかった。
- 結果、シェアカーを活用したボランティア送迎という新たな取り組みの開始につながった。
- ボランティア送迎は利用者の反応もよくニーズも多いが、ボランティアドライバーの成り手不足や地域交通のバッシングという新たな課題に直面し、ボランティア送迎×地域公共交通活用プロジェクトの始動につながった。

①移動手段の高度化【AI】

各フェーズ（検討課題）において工夫したこと、気をつけたこと

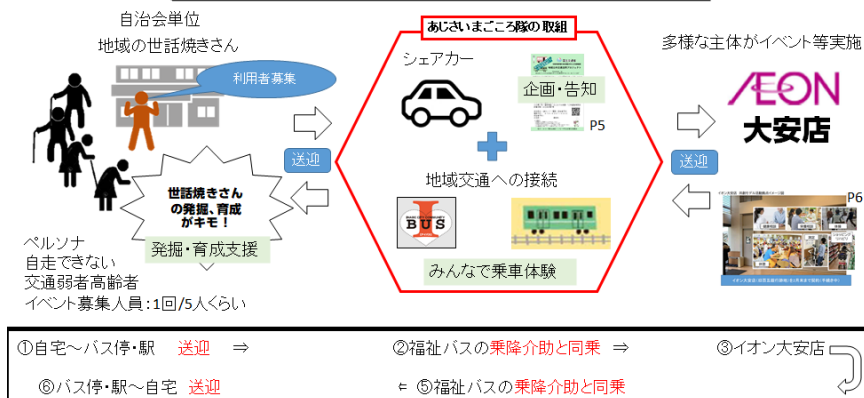
ボランティア送迎×地域公共交通活用プロジェクトの始動

● ボランティア、公共交通、ショッピングが連携する新たな取り組み

- ・ボランティアが高齢者を近くの駅、バス停まで送迎し、高齢者は公共交通機関を経由して、ショッピングセンターへ。ショッピングセンターでは、健康運動、健康講座を受講し、少しだけ買い物して帰宅。（※帰宅は、行き逆の行程。）
- ・単にショッピングセンターへの買い物をボランティアが移動支援するのではなく、
①目的地の提案（ショッピングセンターを買い物だけでなく、健康づくり、仲間づくりの場として提案）、②外出意欲の醸成（家人がいなくても出かける意欲と移動手段の提案）という、外出したくなるような「ちょっとした仕掛け」をすることで、介護予防、フレイル予防につなげるとともに社会参加を促す。



ボランティア送迎×地域公共交通活用プロジェクト



担当者の声



いなべ市
都市整備部
新産業創造課

- ボランティア送迎×地域公共交通活用プロジェクトは、未来技術社会実装事業に関わった地域住民、企業、大学などが連携して始まった事業で、自治体は、各施設、団体との調整や交流を促す役割のみを担った。
- 当初参加自治会は2箇所のみ（2024.9）であったが、現在では、5箇所が参加するまでに至った。（2025.2）
- このプロジェクトのポイントは、送迎アattendするボランティアの活動範囲を、ボランティアの属する自治会に限定しているところで、例えば、ボランティアをしたい人がいても、利用者がいなければ成り立たず、利用したい人がいても自治会にボランティアがいなければ成り立たない仕組みとなっている。
- ボランティアが活動範囲を広げるのではなく（ボランティア活動への負荷軽減）、気心の知れた自治会内でマッチングさせることで、無理のないボランティア活動の推進と地域コミュニティの補完（草取り、ゴミ出し、安否確認などちょっとした気遣いや災害支援など）を目指している。
- 家族から外出を止められている高齢者も自治会ボランティアが伴走することで家族の理解が得られた。また当人も近所の方との外出に意欲を示されるケースが見られ、地域交通との共存、ボランティアの負担軽減、利用者の外出環境の構築効果があった。

① 移動手段の高度化【AI】

社会実装に至った内容

実装

介護予防教室送迎

【サービス概要・特徴】

- 概要：介護予防教室参加者の送迎
- 特徴：これまで手動で計画していた送迎スケジュール、ルートのデジタル化

【サービス開始時期】

- 2024年4月1日

【サービス提供者（開発者）】

- ダイハツ工業

【運営主体】

- いなべ市社会福祉協議会

【利用実績】

- 毎週月曜日、火曜日、木曜日

【初期費用の調達方法】

- デジタル田園都市国家構想推進交付金「デジタル実装タイプ」TYPE1

【運営費用の調達方法】

- 自治体単独費

【導入にあたって苦労した点・工夫した点】

- 苦労した点：職員のデジタル化への理解
- 工夫した点：操作研修の実施

【実装後に見つかった課題・今後の対応方針】

- 見つかった課題：送迎に課題感を持つ医療機関、介護事業所とつながりを持つことができた。
- 本業（医療、介護）から送迎を分離し、一括受託できる法人が存在すれば解決できる
- 今後の対応方針：引き続き、関係者との意見交換をしていく。

【地域課題解決への寄与状況】

- AI共同送迎の利便性は、ふじわらデイサービスセンターで実証できた。他の事業所も興味を示しており、事業者向けの見学会等の開催を検討し、複数の事業所と連携した共同送迎の気運を醸成していきたい。



デジタル化

手動で作成していたルート図
(イメージ)

【ビジネスモデル図】



②高齢者の健康管理【IoT、ビックデータ等】

取組の詳細

【地域課題・将来像】

■ 地域課題

- ・いなべ市藤原地区の高齢化率は約39%と市全体の約28%より高く、高齢化が進行し、孤立・ひきこもりする高齢者が増加傾向にある。

■ 将来像

- ・ふじわらデイサービスセンターに介護予防事業を組み込み、高齢者向けのITポータルを通じPHRを収集し、個別の状況に応じたデジタルを活用した運動支援、生活支援を行う。

【技術的な特徴】

- ・AIチャットボット、顔認証による受付、予約、PHR管理。

【推進体制】

- いなべ市、いなべ市社会福祉協議会、日下病院、ショッピングリハビリカンパニー（株）

【資金調達方法】

<実装前（計画・実証段階）>

単費負担（令和3年度）

<実装後>

単費負担



ふじわらデイサービスセンター



成果・今後の予定

3か年で得られた成果

- ・PHRを取得するため顔認証やウェアラブル端末（Fitbit）との連携が必要であるが、デジタルアレルギーにより高齢者に拒絶されることを懸念していたが、活用欲求と学習意欲が高く、多くの高齢者は、デジタル機器は壊れやすいという先入観があるだけで、講習する機会と期間を設ければ、使いこなせることを発見した。
- ・これまで、参加率が低かった介護予防教室（6カ月クール）に楽しく参加され、教室機関終了後も参加したい移行のある利用者が散見された。
- ・自身によるネット検索結果の利用者間の共有や通信アプリ（LINE）を活用した仲間づくりを促すことができた。

次年度以降の取組（予定）

- ・これまで介護予防教室に限定していた取り組みを2024年9月より、65歳以上の高齢者を対象にした「青空ひろば」を開始した。（予約制）
- ・デジタル機器や運動機器を活用した健康づくり「デジタル健康教室」を開催し、ご自宅での健康づくりの質向上を図る。

各年度の取組実績とフェーズ（検討課題）

	分類	2022年度	2023年度	2024年度
取組	-	➢ 未来技術関連企業の持つ技術と市内医療関係者スキルを活用したサービスの検討 ➢ 課題整理と個別新サービス実証計画を策定	➢ 高齢者デジタルライフ ITポータル事業 ➢ 各種サービスを順次導入し、運用テストの後、実装を開始	➢ 新サービスの事業評価・改善を検討。（第三四半期まで） ➢ 実装サービスの継続実施
（検討課題）	地域	ニーズの明確化	認知度・社会受容性の向上	利用対象者の拡大
	技術	事業手法の検討	技術の導入・検証	
	体制	推進体制の構築	運営体制の構築	
	資金		計画・実証の資金調達	持続可能なビジネスモデルの検討

②高齢者の健康管理【IoT、ビックデータ等】

各フェーズ（検討課題）において工夫したこと、気をつけたこと

技術の導入・検証

●PHRを活用した「生活習慣」の課題の見える化

- ・「顔」にIDを付番し、IDに紐づくPHRを収集（経過比較可能）
○PHR：体組成計測定値、サービス利用時間、ウェアラブル端末（運動量、ストレス値、睡眠時間）、食事情報（スマホ投稿※任意）
- ・タノテック、eスポーツ（太鼓の達人）、フィットネス＋脳トレ（コグニサイズ）など、楽しく運動、認知症予防できるサービスを提案することで、持続性、娯楽性の提供を心がけた。



AIチャットボットによる顔認証



AIチャットボットによる受付



太鼓の達人を活用した健康づくりの様子



ショッピングリハビリカートを活用した健康づくりの様子



タノテックによる健康づくりの様子



AIチャットボットによる顔認証受付の様子

担当者の声



いなべ市
都市整備部
新産業創造課

- デジタルが苦手という先入観は誤りであることの発見。活用意欲等はあるが、操作や使い方を知りたくても聞き方が分からない、家族に何度も同じことを聞いてイヤな顔をされるなどの諸事情により利用できていなかった実態を把握できた。
手厚い操作説明とトレーニング期間を設ければ、デジタルサービスは浸透するものであるとの知見を得た。
- 従前の介護予防教室での運動も一定の改善効果はあると認識しつつも、PHRを把握することで、運動、休息（睡眠）、食事（栄養）のどこに原因があるかを把握でき、前向きな生活習慣の改善案を提案することができた。

②高齢者の健康管理【IoT、ビックデータ等】

各フェーズ（検討課題）において工夫したこと、気をつけたこと

利用対象者の拡大

●青空ひろば、デジタル健康教室による新たな利用者の掘り起こし

- ・いなべ市社会福祉協議会の介護予防係の職員が、介護予防教室利用者との交流から発案したデジタル健康教室。
- ・介護予防教室利用者からの継続参加要望を形にした青空ひろば。
- ・これらの教室は、利用者の声を具現化できた取り組みであり、利用者間の口コミで参加者が広がりつつある。
- ・ふじわらデイサービスセンターだけでの実施にとどまらず、地域の福祉団体（1.5層協議体）の企画するイベント等でもデジタル機器を利用した健康測定会が開催されるなど、新たな利活用と新たな利用者の掘り起こしにつながっている。

市内在住65歳以上の方ならどなたでも利用可能

**青空ひろば
GRAND OPEN!!
2024.8.21(水)~**

毎週水曜日、以下の時間帯でご利用できます。

メニュー

- ・姿勢分析
- ・フィットネス機器
- ・eスポーツ
- ・体組成測定(InBody)
- ・その他リハビリテーション道具

利用時間/定員

①10:00~11:00/10名 ②11:00~12:00/10名
③14:00~15:00/10名 ④15:00~16:00/10名

利用料 200円/回

利用希望の方は、電話で事前予約をお願いします。

事前予約/問い合わせ先
いなべ市社協 介護予防事業係
☎0594-37-6375

＜いなべ市地域介護予防活動促進事業＞ 主催：社会福祉法人いなべ市社会福祉協議会

青空ひろば募集チラシ

【デジタル健康教室（第1期：10月～12月）】

デジタル機器や運動器具を活用することで、より詳細に脳や身体の状態を把握し、効果的に運動をすることが可能になります。
デジタル機器などを上手に活用し、一緒に「健康」づくりに取り組みましょう。

実施日 10/ 8 (火)、22 (火)
11/12 (火)、26 (火)
12/10 (火)、24 (火)

※全6回（全日程に参加可能な方が対象です）

開催時間 13:30～15:30

会場 青空ひろば（ふじわらデイサービスセンター内）

対象者

- ・市内在住の65歳以上の方
- ・身の回りのことが自分でできる方
- ・スマートフォンを活用している方

利用料 300円/回

送迎 応相談

内容 デジタル機器や運動器具を活用した運動やレクリエーション

こんな方にオススメです。

- ・姿勢を測定したい方
- ・運動状況や睡眠状況を把握したい方
- ・栄養が上手に摂れているか確認したい方

申込期日 9月30日(月)

右のQRコードから申込みをいただくか、下記までお電話ください。
※申し込み順で定員（10名程度）になり次第、締め切らせて頂きます。

申込QRコード

☎ 申込先 介護支援課 介護予防事業係 ☎ 37-6375

デジタル健康教室募集チラシ

主催：住みよい地域を守る会（興弁第1.5層協議体）

「住みよい地域を守る会」とは…
H30年から有志が集まり、
員弁町の賑わいについて話し合い、
活動している団体です。

**体のコト、災害備蓄など
これからのことを考え、体験しよう**

日時：2/28(金) 10:00～12:00
場所：員弁老人福祉センター

※体組成分析装置 InBody（バスメンバー一斉参加はできません）

測定しただけで満足してませんか？

※測定結果を基に、アドバイスします

自宅では測定できない姿勢チェックしてみませんか？

※普段の姿勢は、正しいと言えますか？

備蓄品について考える

**有事の際の備蓄品
用意してありますか？**

※備蓄品（一瞬）を食すことで準備品をイメージしよう！

【事務局】
いなべ市社会福祉協議会
地域福祉課 山内・佐田
☎0594-41-2945

員弁地区1.5層協議体の健康測定会募集チラシ

担当者の声



いなべ市
都市整備部
新産業創造課

- 介護予防事業以外の高齢者施策への活用を現場（いなべ市社会福祉協議会）と利用者との交流で開始できたのは、うれしい誤算であった。
- PHRの活用は、国民健康保険の特定保健事業や高齢者の保健事業と介護予防の一体化事業への応用を検討している。

②高齢者の健康管理【IoT、ビックデータ等】

社会実装に至った内容

実装

介護予防教室

【サービス概要・特徴】

- 概要：体操と座学を中心とした介護予防事業に、PHRを元にした健康づくりを加えた。
- 特徴：体操＋座学＋PHRにより、より個別適合した健康づくりを提案するとともに、PHR前後比較することで、健康づくり効果の見える化を図る。

【サービス開始時期】

- 2024年4月1日

【サービス提供者（開発者）】

- ひかり&ホープ株式会社

【運営主体】

- いなべ市社会福祉協議会

【利用実績】

- 毎週月曜日、火曜日、水曜日、木曜日

【初期費用の調達方法】

- デジタル田園都市国家構想推進交付金「デジタル実装タイプ」TYPE1

【運営費用の調達方法】

- 自治体単独費

【導入にあたって苦労した点・工夫した点】

- 苦労した点：利用者への顔認証、PHRデータへの理解
- 工夫した点：顔認証の安全性とPHRについての座学を実施。
- PHRを測定してもらい、測定値について専門職からの個別アドバイス会を開催した。

【実装後に見つかった課題・今後の対応方針】

- 見つかった課題：inbody、fitbitにより、運動、睡眠データは取得できたが、食事データを取得できていない。
- 今後の対応方針：食事データ取得方法を検討

【地域課題解決への寄与状況】

- マンネリ化しつつあった介護予防教室の刷新と新たな参加者の獲得
- デジタル世代への健康づくりのあり方を検討するきっかけとなった。



これまでの介護予防教室



今日から始める「健幸づくり」

健康でいきいきと暮らすためには、私たち一人一人が介護に頼らずに生活していくことが重要です。今回は、「健幸づくり」の拠点である「ふじわらデイサービスセンター」とその利用者を紹介します。元気で豊かな高齢者を育てるためのヒントを探ります。



インタビュー

いなべ市社会福祉協議会 伊藤 伸之さん

筋トレも脳トレもできる場所

当施設は、トレーニング機器を使いながら、デジタル機器を使った楽しい楽しみながらできる「コグニサイズ」ができる場所です。コグニサイズは、自分に合った負荷で楽しみながらできる運動ですが、認知症予防の効果が高く、低負荷でもゆっくりとした動作が筋肉に十分な刺激を与えてくれます。

日常生活を送る上で足腰の筋力は必要。当施設の利用を通じて、下半身の筋力トレーニングを習慣化してもらえればと思います。

新しいことへの挑戦がキーワード

「介護予防は40歳、フレイル予防は65歳から」という考え方があります。介護予防は早くから、自分にはまだ関係ないという印象を持たれがちですが、今や人生100年時代。体が固まってから健康に気を付けるのではなく、人生を豊かに幸福に過ごすための健康づくりとして、1日でも早く取り組み始めることが大切です。

健康寿命の延伸と認知症予防に大切なのは、「人と話すこと」「笑うこと」。そして何より「新しいことに挑戦すること」だと考えています。みなさんも自分の興味関心のあることを始めてみましょう。それを続けていくために必要なのが運動や筋力トレーニングです。ここに集まった人たちが、互いに励まし合ったり一緒に運動をしたり、そこから趣味やサークル活動が始まる—そんなきっかけが生まれる場所としてふじわらデイサービスセンターを利用してみてください。

「ふじわらデイサービスセンター」は、介護が必要になった人を支援する通所介護のほか、高齢者が介護サービスを元気で暮らすための予防支援も行っています。

同施設は、介護予防の拠点として今年度から新たなデジタル機器を導入しています。開催する教室にデジタル機器を使った内容を取り入れるほか、市民が自主的に「健幸づくり」ができるような環境整備を進めています。

毎週水曜日に、青空ひろばの施設を自由に使って、運動や筋力トレーニング、eスポーツなどを楽しむことができます。市内在住の65歳以上の人がであれば、誰でも参加できるので、気軽にご利用ください。

青空ひろば体験会

●開催日 7月24日(水)、8月7日(水)

●対象者 市内在住の65歳以上の人

●利用時間および定員

① 10:00～11:00 / 10人

② 11:00～12:00 / 10人 (団体予約)

③ 14:00～15:00 / 10人 (団体予約)

④ 15:00～16:00 / 10人 (団体予約)

●予約方法 電話または申し込みフォーム

☎ 0253 44-1111 いなべ市社会福祉協議会 介護支援課

📍 介護予防事業所 33-6375



現在の介護予防教室の様子
出典：いなべ市広報誌Link

③高齢者の生活支援【IoT】

取組の詳細

【地域課題・将来像】

■ 地域課題

- ・いなべ市藤原地区の徒歩圏に医療施設がなくなり医療サービス確保が課題。

■ 将来像

- ・自宅近くで専門職への相談等ができる体制でづくり
- ・スマホリテラシーを向上させ、自宅から情報受発信とネットショッピング等生活の質向上

【技術的な特徴】

- ・医療MaaSタスク車両モバイルクリニックによるオンライン相談
- ・スマホなんでもサポート号による移動型スマホ教室

【推進体制】

いなべ市、いなべ市社会福祉協議会、日下病院、MONET Technologies（株）、ソフトバンク（株）

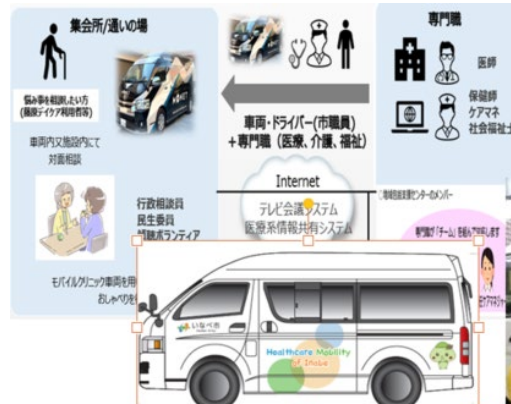
【資金調達方法】

<実装前（計画・実証段階）>

単費負担（令和3年度）

<実装後>

単費負担



モバイルクリニック



・スマホなんでもサポート号

成果・今後の予定

3か年で得られた成果

- ・モバイルクリニック、スマホなんでもサポート号は、ともに車両を活用した新しい事業であり、移動先として地域の集会場やサロン等などの集まりに容易に参加できた。

次年度以降の取組（予定）

- ・モバイルクリニック、スマホなんでもサポート号はその機動性を活かし、新たな訪問先を開拓するとともに、地域のイベント（交通安全、防犯など）とのコラボを実施していく。

各年度の取組実績とフェーズ（検討課題）

	分類	2022年度	2023年度	2024年度
取組実績	-	➢ 実証フィールド（ふじわらディサービス）利用者、ボランティア等市民団体、一般市民へのニーズ調査 ➢ 課題整理と個別新サービス実証計画を策定	➢ 高齢者デジタルライフ モバイルクリニック事業 ➢ 各種サービスを順次導入し、運用テストの後、実装を開始	➢ 新サービスの事業評価・改善を検討。（第三四半期まで） ➢ 実装サービスの継続実施
（検討課題）フェーズ	地域	ニーズの明確化	認知度・社会受容性の向上	利用対象者の拡大
	技術	事業手法の検討	技術の導入・検証	
	体制	推進体制の構築	運営体制の構築	
	資金		計画・実証の資金調達	持続可能なビジネスモデルの検討

③高齢者の生活支援【IoT】

各フェーズ（検討課題）において工夫したこと、気をつけたこと

認知度・社会受容性の向上

●四季の家（通所型サービスB（住民主体））、老人会との連携

- ・モバイルクリニック、スマホなんでもサポート号は、ともに車両を活用した新しい事業であり、訪問先の選定が課題であった。
そこで、四季の家役員と老人会役員に協力を依頼し、実施した。
- ・車両内で実施するサービスのため、集会場等集いの場から車両への移動が、場所ごとに課題があることが判明したため、比較的会場入り口から近い位置に駐車スペースが確保できるところから準備訪問している。



モバイルクリニック車内健康相談



モバイルクリニック車両



地域の集いの場での座学と、「スマホなんでもサポート号」でのスマホ教室

いなべ市
主催

移動型スマホ教室
～参加者 2,000名突破～

参加
無料

携帯電話は
どこでもOK

何處でも分かる
まで参加可能

販売、営業行為
なし

スマホの貸し出し
できます

2/25(火)ふれあいサロン会場
「丹生川中 桜川会館」で開催！

QRコードを使って
申込ができた！

LINEで話と
テレビ電話ができた！

地図で迷わず
目的地に行けた！

いなべ市アプリで
健康管理を始めた！

参加のお申込み方法などは裏面をご確認ください。
参加される皆様の方々の安全を確保するため、天候等の状況により開催を中止する場合があります。

丹生川中 桜川会館 特別開催

開催日 2月25日(火)ふれあいサロン

開催場所 丹生川中 桜川会館(大安町丹生川中)

担当者の声

いなべ市
都市整備部
新産業創造課

- モバイルクリニック、スマホなんでもサポート号は、機動性にすぐれ、中山間地域での集いの場に出向きやすく、個室等により秘密保持も確保できている。
- 悩みや診察等よりデリケートな案件を発掘し、医療機関や行政等の相談窓口に出向かなくても相談できる体制を構築していく。

11

③高齢者の生活支援【IoT】

社会実装に至った内容

実装

ふれあいサロン

【サービス概要・特徴】

- 概要：体操と座学を中心とした住民主体の集いの場「ふれあいサロン」に、モバイル車両を乗り付け、健康測定と個別アドバイスを実施。
- 特徴：モバイル車両で訪問することで、「ふれあいサロン」活動に測定会要素を加えるとともに、個別の悩みの発掘と専門職へのつながりを創出。

【サービス開始時期】

- 2024年4月1日

【サービス提供者（開発者）】

- MONET Technologies

【運営主体】

- いなべ市、いなべ市社会福祉協議会

【利用実績】

- 毎月（ふれあいサロン主催者からの要請により訪問）

【初期費用の調達方法】

- デジタル田園都市国家構想推進交付金「デジタル実装タイプ」TYPE1

【運営費用の調達方法】

- 自治体単独費

【導入にあたって苦労した点・工夫した点】

- 苦労した点：ふれあいサロンは主に地域の集会所で開催されている。駐車場所に課題のある施設がある。
- 工夫した点：ふれあいサロン参加者が、なるべく移動しなくて良い位置に駐車できるようサロン主催者とともに駐車位置を検討した。

【実装後に見つかった課題・今後の対応方針】

- 見つかった課題：健康測定会は評判はよいが、悩み等プライベートな問題の聞き取りが、今のところできていない。
- 今後の対応方針：サロン主催者と意見交換を実施し、定期訪問を心がけ、関係性の構築を図る。

【地域課題解決への寄与状況】

- 高齢者へのアウトリーチ機能が強化できた。



ふれあいサロンとモバイルクリニックの様子